

## ネパール僻地における慢性の病と 治療実践に関する現地調査



アジア・アフリカ地域研究研究科 3年  
中村 友香  
ネパール  
2016年8月3日～  
2017年3月11日

### 渡航概要と内容

WHOによると糖尿病や高血圧、がんなどの慢性疾患は高所得国のみならず、中 - 低所得国においてもその拡大が深刻化している。一方で、ネパールをはじめとする発展途上国において、患者や家族、治療者が、急増する慢性疾患にどのように対処しているのかに関する、ミクロな視点による研究は十分とは言えない。そこで本調査では、慢性疾患に対して、患者と家族、治療者がどのような治療実践やケアに取り組んでいるのか明らかにすることを目的とする。こうした地域で、ミクロな視点から医療研究を行うことは、発展途上国において新興の慢性疾患への認識や治療がどのように展開していくかを理解するために重要である。また、こうした研究は、臨床医療にも貢献するだろう。

こうした研究を行うため、本渡航では、ネパール中西部の農村地域（ルクム郡、ロルパ郡）及び、都市部（カトマンズ市、ラリトプール市）にて特に糖尿病を中心にフィールドワークを行った。ルクム郡及びロルパ郡は首都カトマンズより280キロ離れた農村地域であり、医療資源は限られるものの、アクセス可能な医療施設や治療者自体は多く、慢性疾患の治療実践やケアの様相を多角的な視野で捉えることが可能であると考えられる。また、カトマンズ市及びラリトプール市はネパールの首都圏であり、大規模病院や専門病院が集中する地域である。こうした医療施設は、都市近郊住民のみならず、多くの農村住民が、治療のために泊まりがけでやってくる。農村僻地住民の慢性の病いの治療の状況を、直接的に、またしばしば都市部との比較の中で理解するため、こうした都市部の医療施設においても調査に取り組んだ。

### 渡航を通じて感じたこと

本渡航を通じて感じたこと、理解したことは以下のとおりである。まず、調査を通じては

いくつかの現状を理解した。ネパールにおける糖尿病治療は、医療の商業主義化に伴う医療不信を原因として、困難な状況にあるようだ。特に糖尿病は重症化するまで多くの患者に症状がない。糖尿病に関する、数値のみによる医療指導や薬剤の処方、症状が改善するという患者にとってわかりやすい成果が示されない場合が多い。そのため、患者にとっては、医師が身体を治すのに必要な治療を行っているのである、という実感が得られにくく、医療機関の変更や民間療法、伝統医療の利用への転換などが頻繁に生じている。そうした中で、糖尿病をはじめとする慢性疾患治療をめぐるのは、インドのアーユルヴェーダ会社の健康食品や薬剤、ヨガのテレビプログラムなどが宗教的な要素と時には絡まり合いながら発展を遂げているようである。専門病院においては、必要な検査器具や薬品が揃えられ、システム化された施設運営が行われている。こうした状況は、治療を受けに来る患者に一定の信頼感を与えているようであるが、その一方で、医師と患者が治療に求める内容や認識には大きな差があり、しばしば治療を困難にする。またそのギャップを埋めるように指示されている看護師たちでさえも、しばしば独自の認識を持って素人と専門家の境界を行き来する状況があることを理解した。

また研究以外に、現地で生活することを通して、ネパールの現状が急速に変化していることを感じた。滞在した数カ月の間に、都市部の計画停電がなくなるなどのインフラの整備が見られた。その他、外国人向け価格であると考えられていたレストランやツーリストバスなどの公共交通機関の利用をする、また冷蔵庫や洗濯機などの家電を購入する中流階級層の増加が肌で感じられた。

## 今回の経験をどのように今後生かしていくか

今回の経験は以下の主に以下の二点の方法で活かしていきたい。まず、本渡航を通じてはネパール農村に住む人々の慢性疾患について理解するために、調査対象領域を農村に限らず、農村の人々が利用する都市部の医療機関にまで対象を広げたことにより、より動的な状況を理解することができた。ここで得た調査結果は、博士論文および投稿論文にて成果を発表したいと考えている。また、今回の渡航経験を通じて、これまで研究計画にはなかった、途上国における医療の商業主義化や、移植や手術をめぐるメディカルツーリズムの様相、またインドからの医薬品及び健康食品の輸入など新たな視点を得た。こうした視点を、今後の研究及び次回の調査に活かし、多角的な分析による、より厚みのある博士論文の執筆を目指したい。

また今回の渡航では、糖尿病や高血圧に関する NGO 及び医療機関が主催する公衆衛生的な活動も調査してきた。そうした経験を生かし、今後は、調査という視点からのみならず、こうした活動に直接的に関わることによって、活動が有意義な形になって行くよう、実践的な協力や提案もしていきたいと考える。

## 主な奨学金の使途

- \*生活費
- \*食費
- \*現地交通費 など



調査を行ったルクム郡の村



世界糖尿病デーの行進の様子



村の診療所



ヘルスカンブ

